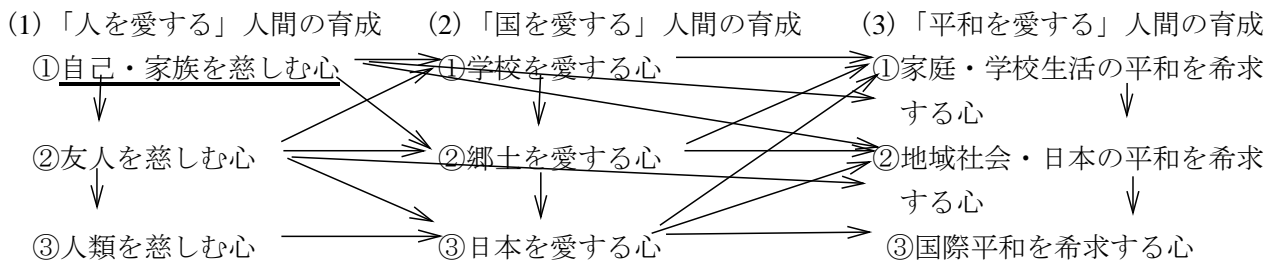


1. 建学の精神(スクールミッション)

「国を愛し、人を愛し、平和を愛し」て、真に社会に貢献し得る有為な人材を育成する。

2. グラデュエーションポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)



※「自己・家族を慈しむ心」を基盤として、各項目が有機的に関連する。

(4) 「真に社会に貢献しうる有為な人材」の育成

- ① 「人を愛し、国を愛し、平和を愛する」人間として、高い道徳性を有し、主体的、自律的に行動できる人材の育成
- ② 人権を尊重し、社会生活において豊かな人間関係を醸成できる、想像力、情操豊かな人材の育成
- ③ 国際的な視野と高い学識を備え、国際社会、地域社会の期待に応じて創造力、行動力を発揮できる人材の育成

3. カリキュラムポリシー (教育方針：教育課程の編成及び実施に関する方針)

(1) 基本方針

建学の精神に基づき「文武不岐」を教育方針として、自主自立の精神に満ちた、教養豊かで、規律と道義を重んじ、心身ともに健康で、国家、社会に貢献しうる人材の育成に努める。

(2) 教育目標

- ① 学習指導の充実と学力の向上を図り、生徒個々に応じた進路指導の徹底により、生徒の白実現、自己実現の達成に努める。
- ② 家庭との連携を密にしながら、きめ細やかな生活指導の努め、生徒と教師、相互の人的ふれあいを深める。
- ③ 基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高め、自主的、自律的態を育てる。
- ④ 学習環境を整備し、安全教育と安全管理の徹底に努めるとともに体育スポーツ活動等を推進し、体力の向上及び健康の保持増進に努める。
- ⑤ ホームルーム活動等を通じ、自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育て、豊かな人間性を培うと

もに、社会の一員として社会貢献への意識や態度を育て、未来を担う人材を育成する。

⑥国際教育の推進により異文化の理解、世界的問題・課題への関心を高め、世界的視野の拡大と国際協働力の育成に努める。

⑦情報教育を推進し、時代の進歩や社会の多様化に対応する能力の育成に努めるとともに、情報に関する諸問題に対応する能力を養う。

4. アドミッションポリシー（入学者の受け入れに関する方針）

(1)中学校で修得した基礎的な学力をもとに、自分の目標実現に向けて、さらに高い学力と広い視野を身に付けようとする生徒。

(2)学校や地域社会の一員としての自覚を持つとともに、他者を思いやり、尊重して、豊かな人間関係を築いていこうとする生徒。

(3)本校で身に付ける確かな思考力、判断力、探究力、表現力を発揮して、仲間と協働しながら、世界や地域の課題に対して意欲的に取り組もうとする生徒。

5. 校訓（学校生活における、生徒の心掛けるべき指針）

質実剛健

飾り気がなく誠実に（つまり「文（仁）」を備え）、心身共に健やかに生活する（則ち「武（義）」を实践する）態度を心掛けよう。

※「校訓」

各学校の建学精神、教育方針などを標語的に成文し、児童生徒の学習生活の指針としたもの。

（『日本国語大辞典 第二版』小学館 2001 年）

【用語解説】

文武不岐

「忠孝无二、文武不岐、学問事業、不殊其效(忠孝二无く、文武岐れず、学問事業其の效を殊にせず)」

「忠（主君への仁）と「孝（親への仁）」とは二つのものではなく（ただ一つのものであり）、「文（仁道）」と「武（義道）」とは分かれるものではなく（一体のものであり）、「学問」と「事業（世の中を納める仕事）」の（両者の）効果は二つに断ち切ることはできない（相互に依存しあうものである）。

（「弘道館記」より抜粋。萩谷訳。）

※「文武両道（「文」と「武」二つながらの道）」との違い、「文武不岐」の意味については、別紙『翁問答』（中江藤樹著、加藤盛一校註、岩波文庫 1936 年）を参照のこと。

※「仁」

人と人とのあいだに自然に発露する親愛の心。自分のまごころ（忠）と他人への思いやり（恕）、自分のわがままをおさえ（克己）自分の欲しないことを人に施さないことなどがその実践内容。

「夫子之道、忠恕而已矣(夫子の道は、忠恕のみ)」 『論語』「里仁」

「克己復礼為仁(己に克ちて仁に復へるを仁と為す)」 『論語』「顔淵」

※「義」

正しい道理のこと。仁が人間の内面的なあり方であるのに対して、義は仁を社会的に実践するための具体的基準であり、時と場所と相手にふさわしく適切に判断し行動することをいう。

（『倫理用語集』山川出版社 1996 年）